

説 教

聖日礼拝 北浜チャーチ
2021年10月17日(日)
黒田禎一郎

主 題：「記憶を呼び覚まさない」

—神のみことば—

テキスト：第2ペテロの手紙3章1, 2節

はじめに

- ・最近、パソコン、スマートフォンをはじめとする SNS が急速に広まってきました。今では世界のニュースが、自分の手の中で入手可能な時代となりました。そして自分から誰でも、ニュース、情報を発信する驚異的な時代となりました。その背後にはコンピューターの著しい発展があります。その速度は非常な速く、さらに発展を遂げようとしています。ですから、この分野において年配者は若者についていけなくなってしまうました。
- ・約 40 年前、私がドイツの神学校で学んでいた時代のことを思い出しました。当時は、今のような SNS がまだ発展していなかった時代、私たち学生は聖書用語（たとえば「愛」、「平安」、「信頼」、「喜び」、「忍耐」、「恵み」など）を、図書館に行き、辞書、コンコルダンス、参考書を調べてはその聖書的意味を書き出して、自分のノートを作ったものでした。それが試験に出たことをよく覚えています。
- ・その時、ある教師が「未来にはコンピューター技術が発展し、聖書用語をクリック一つでその意味を出すことができる時代が来る」と語られました。私はそんな時代が来ることは考えられませんでした。しかし、今は確かにそれが現実化しました。たとえば「J-Bible」です。
- ・ワン・クリックで、何十万語という単語の中から適切な聖書用語を簡単に引き出すことができます。本当に信じられない時代を迎えました。
- ・大変、便利な時代とはなりましたが欠点もあります。それは「多忙」になったことです。忙しすぎるのです。心静める時間、読書をする時間、友人とゆっくりと話す時間などが不足するようになってきました。一つの理由として、SNS に時間を奪われているからかも知れません。
- ・人は SNS を発展させることができましたが、今度は SNS に支配されてしまうことになりました。それが今の時代、大切な自分を見失ってはいないでしょうか。SNS から流れる溢れるほどの情報に、どっぷりとはまっけてはいないでしょうか。

- そのように考えますと、半世紀（50年）前までは手書きのレターが主流でした。自分の手でペンを握り手紙を書いたものでした。その一通の手紙が、人を励まし、力を与え、勇気を与えてくれました。また愛の手紙もありました。その時代はそれなりに良かったと、私は思います。
- 今から約2千年前、この書簡の著者ペテロが手紙を書いた時代、1通の手紙を書くというこことは、どれほど多くの労力を必要としたことでしょうか。初代兄弟の指導者の一人であったペテロは、第1の手紙に続いて第2の手紙を書きました。それが今日、私たちが開いているテキストです。彼は何を伝えようとしたのでしょうか？ 2点

大切なポイント

1. 記憶を呼び覚まさない

- まず聖書テキストを読みましょう
 - 3:1 愛する者たち、私はすでに二通目となる手紙を、あなたがたに書いています。これらの手紙により、私はあなたがたの記憶を呼び覚まして、純真な心を奮い立たせたいのです。
 - 3:2 それは、聖なる預言者たちにより前もって語られたみことばと、あなたがたの使徒たちにより伝えられた、主であり救い主である方の命令を思い出させるためです。
- ペテロは先ず、「愛する者たち」と語りかけています。これまでのところでは、一度も用いられなかった呼び名です。3章を読み進んでいきますと、4度も用いられています。1節、8節、14節、17節です。
- 伝承によれば、ペテロはこの時「囚われの身」でローマの獄中にいました。この手紙の受取人は小アジア（今のトルコ）に点在した諸教会でした。彼らへの愛のレターでした。
- 小アジアはローマからは地中海を挟み、ギリシャを越えてなお東方に位置していました。今のようにSNSの発展した時代ではありません。非常な距離の隔たりを感じていたことでしょう。さらにペテロは自分の死期が近づいていたことも自覚していました。彼は次のように述べました。
 - 1:14 私たちの主イエス・キリストが示してくださったように、私はこの幕屋を間もなく脱ぎ捨てることを知っています。
- 確かに、ペテロと小アジアの諸教会の間には距離はありました。しかし、ペテロは聖徒たちとの間に距離感は無かったことでしょう。ましてや自分の死期が近づいたことを悟っていましたから、彼は「愛する者たち」という呼びかけをいたしました。

- ・では、なぜペテロはここで4度も「愛する者たち」という呼びかけをしたのでしょうか。⇒それは神の国建設という同じ使命感を持つ同胞であったからです。

聖徒が地上に置かれているのは、神の国建設にあります。イエス来臨の意義は、神の国建設でした。イエスは言われました。マルコ福音書1章

1:15 「時が満ち、神の国が近づいた。悔い改めて福音を信じなさい。」

- ・神の国とは、神が王として支配される御国です。それは天の御国を指しますが、天の御国を地上にもたらしてくださった方がイエス・キリストでした。そしてイエスによって救われた聖徒たちも、地上で神の国の現実に生きるようにおいてくださいました。それは神の恵みであります。
- ・私たちは、自分が置かれている境遇や健康のことで、大切な使命への自覚を失うことがあります。しかし、そうであってなりません。ペテロはそこでこの手紙書いた理由を述べています。

3:1 愛する者たち、私はすでに二通目となる手紙を、あなたがたに書いています。これらの手紙により、私はあなたがたの記憶を呼び覚まして、純真な心を奮い立たせたいのです。

- ・私たちはペテロの真意をさらに掘り下げてみましょう。

2. 心を奮い立たせなさい

- ・ペテロは第1の手紙を書きましたが、どれぐらい間をおいてこの第2の手紙を書いでしょうか。彼は「あなたがたの記憶を呼び覚まして、純真な心を奮い立たせたいのです。」と述べていますから、それほど長い時間ではないと思われれます。記憶を呼び覚まし、心を奮い立たせたいという文面から、彼はきっと第1の手紙を書いてから、まもなくではなかったかと思えます。
- ・では、ペテロはどんな記憶を呼び覚まして、純真な心を奮い立たせたかったのでしょうか。ペテロは第1の手紙で、キリスト者の忍耐、苦難、希望について書きました。第2の手紙では敬虔な生き方への招きを書きました。ここで次の2点を覚えましょう。

1) 主の恵みを思い起こす

- ・ここで、思い起こすべきペテロの言葉を引用したいと思います。
- 1:5 だからこそ、あなたがたはあらゆる熱意を傾けて、信仰には徳を、徳には知識を、
- 1:6 知識には自制を、自制には忍耐を、忍耐には敬虔を、
- 1:7 敬虔には兄弟愛を、兄弟愛には愛を加えなさい。

1:10 ですから、兄弟たち。自分たちの召しと選びを確かなものとするように、
いっそう励みなさい。これらのことを行っているなら、決してつまずく
ことはありません。

1:12 ですから、あなたがたがこれらのことをすでに知り、与えられた真理
に堅く立っているとはいえ、私はあなたがたに、それをいつも思い起
こさせるつもりです。

1:13 それを思い起こさせて、あなたがたを奮い立たせることを、私は地上
の幕屋にいるかぎり、なすべきだと思っています。

1:15 ですから、ぜひとも、私が去った後いつでも、あなたがたがこれらの
ことを思い起こせるようにしておきたいのです。

- これらの聖句はペテロが書いてきた言葉です。私たちに求められているのは、
多くのことではありません。これから、もっと学ぶ必要もありましょう。
しかし、学べば学ぶほど、自分の足りなさを覚えます。しかし自分は長年、
信仰生活を送っているのに、あるいは、これだけ聖書も通読しているのに、ま
だまだであるという不足を覚えます。時間の足りなさを感じるものです。

2) 苦しみの中で学んだ主のおしえ

- そこで大切なことは、自分にできることとして、主の恵みを思い起こすこと
です。新しい何かを学ぶ以上に、これまで教えられてきたこと、すでに学ん
できたことを思い起こすことです。なぜなら、苦しみの中で学んだ大切な主
のみおしえがあるからです。詩篇 119 篇

119:71 苦しみにあつたことは私にとって幸せでした。それにより私はあな
たのおきてを学びました。

- 確かに、私たちも学んできたことはあるはずですが。苦しみの中で、普段は聞
こえない主の細い声を聞きました。一步、一步の歩みの中で、私たちは主が
育んでくださり、主が教えてくださったことがありました。しかし、すぐ忘
れしまいます。ですから、いつも主の恵みを思い起こすことは大切です。
- 皆さん。私たちがみことばから教えられこと、経験の中で教えられたことは
宝石のように尊いものです。それは学校で学ぶこととは異なっています。そ
れはこの世にあつて生きるのに、不可欠なものです。私たちが霊の戦いにお
いて、身を守るために必要な武具となります。
- 私たちは天にある「神の御国」を憧れつつ、歩むものです。しかし、現実の
生活の中ですぐ忘れてしまうのです。なぜ、でしょうか？ →
神の国と神の義を見つづけることよりも、今ある自分の歩みと現実の方を見
つめやすいからです。

- ・あのガリラヤ湖の湖上にいたペテロを思い越してください。ペテロはイエスではなく荒れ狂う波と風を見て、恐れ、沈みはじめました。それが私たち人間でもあります。ペテロはそのような経験を通して、このように書きました。
3:1 愛する者たち、私はすでに二通目となる手紙を、あなたがたに書いています。これらの手紙により、私はあなたがたの記憶を呼び覚まして、純真な心を奮い立たせたいのです。
- ・皆さん。主のみことばは繰り返し、繰り返し語られ、また繰り返し読まれるべきものとして、私たちに与えられています。それらを通して、私たちは記憶を呼び覚ましていただき、その心を奮い立たせていただくのです。
3:2 それは、聖なる預言者たちにより前もって語られたみことばと、あなたがたの使徒たちにより伝えられた、主であり救い主である方の命令を思い出させるためです。
- ・聖書が語るメッセージは、聖なる預言者たちによって昔から語られてきました。また主が遣わされた使徒たちによって、御霊の導きを通して取りつがれてきた福音です。そこに歴史を支配される神の確かなご計画があります。ペテロは、それは「主のご命令」であると言いましたから、私たちしもべが軽んじてよいわけはありません。
- ・そう考えてきますと、「聖書信仰」とは、主のみことばに対する私たちの応答、その姿勢を言い表したものとと言えます。ですから、「聖書は誤りない神のことば」であると、ただ唱えていれば安全なのではありません。聖書のみことばに、いかに誠実に向き合っているかが問われています。
- ・聖書のみことばを繰り返し読み、聞き続けることで、記憶を呼び覚ましていただくのです。そして心が開かれ、奮い立たせていただくことができます。

ま と め

主 題：「記憶を呼び覚まさない」

- 神のみことば -

- ・今日も私たちは、主からおことばをいただきました。それは神を信じる私たちの姿勢です。ペテロは小アジアの愛する人たちに、何を書き送ったでしょうか。
- 1. 主の恵みを思い起すこと
3:1 愛する者たち、私はすでに二通目となる手紙を、あなたがたに書いています。これらの手紙により、私はあなたがたの記憶を呼び覚まして、純真な心を奮い立たせたいのです。

2. 主の命令を思い起すこと

3:2 それは、聖なる預言者たちにより前もって語られたみことばと、あなたがたの使徒たちにより伝えられた、主であり救い主である方の命令を思い出させるためです。

* God bless you !